

ワークの流れ

1. **教養教育**に関するミニレクチャー
2. アイスブレイク
 - 自己紹介、あなたが考える「教養」とは!?
3. ワーク1
 - 授業を通して伝えたいこと、授業実施の背景についてまとめる。
4. **授業設計**に関するミニレクチャー
5. ワーク2
 - 授業の目的、目標を設定し、具体的に授業概要を計画する。
6. まとめ(参加者間での共有)

セミナーの目標

- 自身の考える「教養」について説明することができる。
- 自校における教養教育のニーズを考えることができる。
- ニーズに合った教養教育授業の目的・目標を設計することができる。

ワークの手順

1. 教養教育の授業であなたが学生に学んでほしいこと、授業計画の背景を書き出す。(ワークシート1-①)
2. 1.で書き出した内容から、特に大切にしたいものを選び出す。(ワークシート1-②)
3. グループ内でワークシート1の共有をする。
4. ワーク1で決めた項目について、取り上げるテーマ、授業方法を決める。(ワークシート2-①)
5. 授業の目的・目標を設定する。(ワークシート2-②)
6. 具体的に授業計画を立てる。(ワークシート2-③)
7. 全体で共有をする。

ワークのアウトカム

- **個人ワーク→ワークシートの完成**
 - 自身が授業を通して伝えたいことを整理することができる。
 - 授業計画する上での背景(カリキュラム内の位置づけ、求められるスキルなど)を整理することができる。
 - 教養教育の授業目的・目標を設計することができる。
 - 授業の目的・目標に沿った企画を考えることができる。
- **グループ内、全体での共有**
 - 他者に伝えることで、自身の考えの要点を整理することができる。
 - 他者の考えを聞き、共有することで、新しい視点に気づくことができる。

グループで共有

- 共有の仕方
 - 各自がまとめたワークシートをもとに、**1人1分程度説明**をし、**質疑応答**を行う。
 - 質疑は、**1人の発表につき1回**、希望者がいない場合は発表者の右の人が質問をする。
- 発表を聞く際に注目するところ
 - **整理の仕方は適切か?**
 - **自分のプログラムの参考になるところはないか?**

全体で共有

- 共有の仕方
 - 個人で作成した**授業計画を壁に貼り**、ポスターセッションのような形式で見てもらい、**気づいた事やコメントなどをポストイットに記入して張る**。
- 他者の計画との共有の際に注目するところ
 - **目的・目標の設定の仕方は適切か?**
 - **授業は、目的・目標に合っているか?**
 - **自身の授業の参考になるところはないか?**

授業の目的

- 存在意義【purpose】
 - なぜこの授業が存在するのか。
 - この学習がなぜ必要か。
- 現実的なもの
 - 学生が、授業終了後に「こんなことができる」「こんなことを知ることができる」というイメージを抱けるように書く。
- 学習者を主語として書く。
- 複雑な概念を持つ動詞を用いて表現する。
 - 理解する、適用する、認識する、評価する、習得する、判断する、考察するなど
- 学習される知識や技能が、将来どのように利用されるか明らかにされている必要がある。

授業の目標

- 達成目標【goal】
- 学習者を主語として書く。
- この授業の終了段階で、できるようになってほしい行動を「〇〇できる」という形式で書きます。
- 観察可能な行動で表現する。
- 具体的な概念を持つ動詞を用いて表現する。
 - 列挙する、述べる、記述する、指摘する、示す、表現する、実施する、調べるなど
- 一つの文章に一つの独立した内容を書く。
- 目標行動が評価される「条件」、「基準」、「行動」を明示する。

授業方法、教科書、参考書

- 講義、演習、実験、実習、グループワークなどの方法と展開の仕方
- 講義形式の場合、どんな資料(ビデオ、スライド、標本等)を用いるのか
- 実験、実習の場合、どのようなグループ分けをするのか
- 教科書を使用するかどうかを記載し、使用する場合、教科書名、著者名、出版社、出版年、価格、入手方法について
- 授業に関する参考書、参考資料、webページ

成績評価

- 方法
 - 授業の目標・目的が達成できたかどうかを判定するような成績評価方法を行う。
 - 学年末試験だけでなく、小テストやレポート課題などを併用するとよいでしょう。その際には、基準や配割合も明記する。
- 基準
 - 成績評価の基準や配点を明確にしておく。
 - 評価内容が授業の到達目標と合致していること

その他の注意事項

- 私語をしない
- 携帯電話の電源
- 欠席、遅刻について
- 受講する上でのルール

など

参考文献

- ・ 徳島大学大学教育委員会(2002)『徳島大学FD推進ハンドブック』
- ・ 佐藤浩章編(2011)『大学教員のための授業方法とデザイン』
- ・ 愛媛大学教育・学生支援機構(2007)『もっと授業をよくするために』
- ・ 池田輝政他(2001)玉川大学出版部『成長するティップス先生』
- ・ 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(2008)『FD担当者必携マニュアル』第二版